



野庭すずかけ小だより

6月号

横浜市立野庭すずかけ小学校
2026(令和8)年5月29日
TEL 842-3105

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nobasuzukake/>

伸びゆく「すずかけの木」と共に

副校長 和田 幸子

このたび、副校長として着任いたしました和田幸子(わださちこ)と申します。子どもたちが安心して学び、毎日を楽しみに登校できる学校づくりに、教職員と共に力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

休み時間、校庭に出てみますと、6年生が優しいまなざしで1年生の話に耳を傾けたり、「チャイムが鳴ったよ、教室に戻るよ」と声をかけたりする姿が見られます。1年生も上級生に見守られながら、伸び伸びと学校生活を送っています。

ある日の昼休み、1年生に「すずりんの木(すずかけの木)の方に行ってもいいですか」と声をかけられました。その子に案内してもらい、出会うことのできたすずかけの木は、みずみずしい若木でした。子どもたちの成長とともに大きく育っていく“学校のシンボル”として、どなたかが植えてくださったのでしょう。

担任の先生によると、子どもたちは学校探検の際、幹のつるつるした感触や不思議な模様など、発見したことを目を輝かせて語っていたそうです。低学年の子どもたちは、興味のあることに夢中になって、周りが見えなくなってしまうこともあります。感覚を総動員して観察している分、大人が見過ごしてしまうようなことも、この時期の子どもたちには色鮮やかに見えているのだと感じました。

先日、登下校時に子どもたちを見守ってくださっている「すずかけ応援隊」の方々からお話を伺う機会がありました。「なかなか帰ってこないと心配していたら、草むらから出てきたんですよ」「6年生の子が、下級生の子に『おぼちゃんが待ってるから早く帰ろう』と声をかけてくれる」など、様々な温かいエピソードを伺い、地域の皆様が長年にわたり、子どもたちの安全と成長を見守ってくださっていることに、改めて深い敬意と感謝の気持ちを抱きました。

また、車通りの多い交差点では、低学年の子が友達を見つけて周囲を見ずに走り出してしまい、危険な場面があったことも伺いました。大人に比べて子どもの視野は狭く、6歳では上下約70°・左右約90°ほどしか見えていないそうです。身長も低いため、大人の見える範囲の6割程度しか見えていないと言われています。歩行中の事故は登下校時や帰宅後の外出時に多く、特に1・2年生にあたる7歳の事故が突出して多いというデータもあります。

「チャイムが鳴ったら教室に戻るよ」「待っている人がいるから寄り道しないで帰ろう」と優しく導いてくれる6年生のように、少し先に大きくなった私たち大人が、子どもたちが安全に、安心して過ごせるように、学校・家庭・地域で力を合わせ、環境を整えていけたらと思います。子どもたちの登下校や学校生活のサポートについて、「少しなら手伝えるかもしれない」と思ってくださいの方がいらっしゃいましたら、どうか遠慮なく学校までご連絡ください。まだ若いすずかけの木がこれから大きく育っていくように、保護者の皆様、地域の皆様と共に、子どもたちの毎日を温かく支えていける学校でありたいと心より願っています。